

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600264		
法人名	株式会社セキ・ライフサービス		
事業所名	グループホーム みやじの森・風 (月)		
所在地	豊川市小田渚町7丁目132-4		
自己評価作成日	平成31年3月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様にゆったりと穏やかに過ごして頂けるよう、施設の雰囲気作りをしています。外出の機会が毎日あり、お客様の出来る事を職員と一緒に going しています。ご本人様の個性、ご意向やご家族様のご希望を重視し、支援できるよう対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2392600264-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは広い敷地に両ユニットが平面につくられていることで、ホーム内はゆったりとした広さが確保されている。天井についても高く設計されていることで、利用者がホームの生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。出入り口も日中の時間は施錠を行わない支援に取り組んでおり、利用者の状況等に合わせて外出する時間をつくる等の支援が行われている。基本理念から利用者の「〇〇したい」という思いが実現するように、利用者一人ひとりに関する職員間で定期的及び随時の情報交換を行いながら、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。利用者の中には、ホームで居室で趣味を継続している方や、家族の協力も得ながら入居前からの生活習慣を継続している方もあり、利用者一人ひとりがホームでの生活が前向きなものになるような支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成31年3月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の理解、共有は出来ているが、事務所内等に張り出して欲しい。買い物や調理を一緒に行いながら、実践をしているが、不十分と思う	ホーム開設に合わせて理念をつくり、職員間での共有につなげる働きかけが行われている。理念には、利用者の「〇〇したい」思いを実現することを目指した内容を掲げており、カンファレンス等を通じて理念の内容を実践するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りや行事に参加させてもらっており、徐々に地域に受け入れられている。	地域の方との交流については、地域の町内会に入り、ホームからの働きかけを行いながら、地域の方から行事等の情報を得て、利用者と参加する等の取り組みが行われている。今後に向けて、段階的に関係を深めていく方針である。	ホームからは地域の方との情報交換を行いながら、地域の行事等への参加が実現している。今後に向け、地域の方がホームに訪問してもらう機会を増えることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	買い物や地域の行事に出かける等をしているが、地域の人々に向けた発信は、出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を職員間で共有し、会議などを行い活かしている。	会議には地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、家族の参加も得られており、運営状況を報告しながらホームへの理解を深めてもらう意見交換等が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	困難事例等には、連絡し連携を図っている。	市内の介護事業所が集まる連絡会等の際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、市内の介護事業所とのネットワークへの参加、協力する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間については、施錠している。定期的に研修を行い、身体拘束適正に努めている。	ホーム内の玄関には施錠等の対応を行わないように支援が行われており、利用者の状況等に合わせた職員間での支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討会議や職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を定期的実施している。家族との外出時に虐待の形跡がないか、施設内でも皮膚状態に注意するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての、講習の実施や成年後見制度の申し立て時の支援を実施している。(本年度2件実施)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでに、入居までの流れや入居後の生活、その後の支援を含め説明し、契約時にも十分に説明し、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が来所された際には、生活の状況を報告し、要望を伺っているが、外部者へ表せる機会を持っていない。	ホームでは、ユニット毎に管理者を配置する体制をつくっていることで、家族からの細かい要望等の対応にもつながっている。また、新たにホーム便りの発行を始めており、ホームの状況等を家族に報告している。	現状、家族との交流会の取り組みが行われていない現状もあるため、今後に向け、家族も参加する行事等の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングを実施し、職員の提案や意見を聞く機会を持っている	毎月の職員会議の他にも、日常的にも職員間で意見交換を行う時間をつくり、職員からの要望等を法人代表者でもある管理者が把握し、運営への反映につなげている。また、ホーム内に委員会をつくり、職員間で役割分担を行う取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の能力に合わせた配置やスキルアップ、プロモーションを行い、モチベーションを上げていけるようにしている。職員間にも注意し、コミュニケーションも円滑に図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングや各委員会、社内研修等を実施し、ケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修への参加や、管理者は他事業所との交流、情報交換を行う等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者が面談し、本人の要望や状態を確認し、スタッフへ情報共有している。入所後も本人の状態や要望を確認し実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を行い、家族の要望等を聴取し、職員間で情報共有している。入居後も信頼関係を築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の意向を確認し、必要に応じたサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の潜在能力を注視し、本人が出来る事を行ってもらいながら、調理や掃除などをいっしょに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に生活状況の報告や協力いただける事を依頼し実施して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との外出や馴染みの理髪店へ通えるよう支援している。	利用者の入居前からの生活習慣を継続することができるように、ホームからの支援も行われており、知人や友人との交流の継続や行きつけの美容院の継続等につながっている。また、家族にも働きかけを行いながら、一緒に外出する機会もつづられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配慮やレクリエーション等を通じ、利用者間で良好な関係を築き、閉じ困らないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	2名退去者はいるが、その後のフォローは実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉や行動などを観察し、希望などを把握している。困難な場合は、本人の生活歴や家族からの聞き取りから本人の意向を検討している。	利用者の「〇〇したい」思いを職員間で考えることを支援の基本と考えており、利用者毎に申し送り記録を残す等、一人ひとりの意向等の把握を行い、日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスの実施も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴などの聞き取りを行い、情報共有を行っている。入居後も本人からの聞き取りや家族からの情報を得られるよう実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェックや身体状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスの実施、本人や関係者、職員の意見を聴取し、作成している。	介護計画を3か月での見直しを行っており、利用者の変化等に合わせた見直しに取り組んでいる。日常的にも職員間で利用者に関する細かな記録を残すように働きかけを行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りや記録を行い、情報共有を行い、必要に応じて見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に合わせたケアや他業種との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事への参加、ボランティアの依頼、買い物など、地域資源の情報を収集し参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診や臨時往診、必要に応じてた医療機関への受診の支援を行っている。	協力医とは医療面での定期的及び随時の支援が行われており、利用者の健康状態等に合わせたホーム職員による受診支援等も行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、利用者の健康管理等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職と看護職の情報共有を行い、必要に応じて臨時往診や他医療機関の受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、入退院連携を行い、サマリー等の発行や訪問し情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	適宜、研修の実施や必要に応じてカンファレンスやチームケア等を行えるよう体制を整えている	医療面での連携を深めながら、ホームでの看取り支援も想定しており、家族との話し合いを重ねながら、意向に合わせた支援に取り組んでいる。また、専門の委員会をつくり、職員研修の実施等、必要な支援体制にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	上級救命の受講やマニュアルを整備し、研修の実施等を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練やマニュアルの整備を行い、周知徹底している。	年2回の避難訓練を実施しており、通報装置の確認等、ユニット及び職員間で連携した対応に取り組んでいる。水害が想定される地域でもあり、水害想定訓練も計画に入れている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	地域の方との協力関係については、ホームからの働きかけも行いながら、段階的に関係をつくっている状況である。水害も想定しながら、地域の方との協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや自尊心に配慮し、一人一人に合った対応をしているが、不十分なケースも見られる。	基本理念にも利用者の思いに寄り添いながら、その方の意向に合わせた支援ができるように、管理者からも職員による利用者への対応、言葉遣い等に注意するような働きかけが行われている。また、接遇に関する職員研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自己決定できるような質問や日頃の会話や状況により本人の意向を検討している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にし、その日の気持ちや体調に配慮しながら、生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容、理美容の実施や本人と一緒に服を選ぶ、マニキュアの実施などを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物、調理、片付け等の出来ることを一緒にいながら実施している。	栄養士でもある職員が基本メニューを考えており、利用者の好みや嗜好に合わせた随時の対応が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、利用者も参加したおやつ作りや季節等に合わせた食事作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分や食事量のチェックを行い、本人の好みに合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施し、本人の状況に合わせて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄に努め、定時誘導を行い排泄パターンを把握できるようにしているが、不十分。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせて支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や体操、運動の促し自然排便できるよう支援しているが、下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日を設定し、入浴を行っている。希望等あれば、対応している。	週2回の入浴が行われているが、ユニットが平面でつながっている利点を活かし、ユニット間で連携した対応も行われている。浴室にリフトが設置されており、利用者の身体状態に合わせて支援も行われている。また、季節に合わせて入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動や居室の温度管理、生活状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の場所、処方内容や情報を常にわかるようにしており、変更時には申し送り等で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や買い物、散歩等、本人の趣味等に合わせて実施しているが、不十分		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物には、日常的に出かけている。季節に合わせた外出も実施している。家族との外出支援や地域行事への参加等、地域の人々にも協力してもらっているが、不十分	日常的にホーム近隣への散歩や買い物に出かける等、日常的に外出する機会をつくっている。季節に合わせた公園等への外出行事の取り組みも行われている。今後に向けて、利用者の意向にも合わせた個別の外出支援にも取り組んでいく方針でもある。	基本理念でもある利用者の「○○したい」という思いが実現できるように、今後に向けた利用者の希望等に合わせた外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設での金銭管理は行っていない。本人にも所持させていない。希望時には、家族へ連絡し対応して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が電話や手紙を書けるような支援は行っていない。家族からの連絡があった際は、本人へ取次ぎ居室で話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度、刺激については、配慮している。季節に合わせた飾りつけや作品作りを行っている。	ホーム内は広めの空間で天井も高いことで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。また、通路にはベンチが置かれてあり、利用者が日中の時間を好みの場所で過ごすことができるような配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席やテーブルの配置、導線配慮をしている。また、仲の良い人同士がコミュニケーションを図れるようユニット間の行き来を自由にしてしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が自宅で使用していたものを、入居時に家族と相談しながら持参して頂くよう依頼している。また、希望に応じ、福祉用具や日用品の購入の支援をしている	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた使い慣れた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には日中の時間を居室で過ごすし、趣味を継続している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	状況に合わせ、居室やトイレが分かるよう張り紙をする等をおこなっている。建物もバリアフリーになっており、自由に行動できるようしている。		